

+ Viva Kango

Campus News of Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字北海道看護大学

卒業論文 発表会



昨年の十二月二十日午前十時から午後三時まで、本学アリーナに於いて四年生全員による初めての看護研究演習(卒業論文ポスター発表会)が開催されました。研究演習課題数は、個人研究が三十九題、グループ研究が二十七題で合計六十六題に及ぶものでした。会場は発表者の緊張感と真剣に耳を傾ける視聴者の熱気に大変な盛り上がりを見せました。



それぞれの研究テーマは、赤ちゃんから高齢者を対象としたものや、ラット、障害者など多岐に渡っていました。研究方法では、インタビュー、実験、各種調査、文献研究が多く中には、看護研究データベースの開発などもあり、参加者の目をひいていました。研究内容は、仮説の検証や実態が報告されていました。

昨年の四月以来、それぞれの指導教員のもとで、八か月

をかけてとり組んできた成果を存分に発揮していました。研究への取り組みについて聞いたところ、マイペースで終わることができたという学生もいましたが、多くの人は夏休み中にとりかかり始め、発表ぎりぎりまでかかったという人もあり大変だったようです。何よりも、達成感が得られたという言葉が多く聞かれ、満足感にあふれていました。

会場には三年生の参加者も多く、その目的は来年の準備のために参加したという学生が多く、中には自分の研究領域を決めるための参考にしたという人もいました。発表を終えたそれぞれの学生の表情には、「助産師・保健師・看護師の国家試験」の合格に向けての内なるエネルギーが感じ取れました。



平成15年度 大学院開学

志望する各専門領域に対する試験科目

志望する領域	左記の領域に対する試験科目
基礎看護学領域	基礎看護学
成育看護学領域	小児看護学
急性期看護学領域	成人看護学
地域看護学領域	地域看護学
臨床薬理看護学領域	成人看護学または薬理学

出願期間	平成15年1月20日(月)から2月3日(月)まで
募集定員	6名
試験日	平成15年2月16日(日)
試験会場	日本赤十字北海道看護大学
合格発表	平成15年2月19日(水)午後5時
試験科目	志望する専門領域の試験科目、外国語(英語)、面接

本学では、文部科学省に大学院設置の申請をしておりましたが、昨年の十二月十九日に同省から大学院設置の認可を受け今年の四月一日から開学することになりました。

同大学院は、高度専門職業人として優れた見識と最新の知識をもって、看護に関連する諸問題に対応できる関連領域専門職者の育成、及び看護学の発展に寄与することを目的としております。

大学院の概要は、看護学研究科看護学専攻(修士課程)、収容定員十二名(入学定員六名)、修行年限は二年です。

課程編成の特色は、看護学の諸分野において専門的・指導的役割を果たすことができる人材を育成するため、専門区分を基礎看護学系、実践看護学系、臨床薬理看護学系の三専門系に分類してあります。さらに実践看護学系には、成育看護学、急性期看護学、地域看護学の三領域を設定しています。今年の学生募集は、次のとおりです。

第二回公開講座開催

二十一世紀の健康づくり

― 自ら行う病の予防 ―

第一講 九月二十五日(水)

身体を支える足の健康

講師 久賀久美子

身体を支え、第二の心臓と呼ばれる足の働きを解説し、フットケアの足浴を取り上げ、研究結果を基にその効果とケアの推進を提唱、また家庭で簡単にできる足浴ケア実施法も提案された。

第一講 九月十八日(水)

人によさしい街づくり

教授 中岡 良司

人口高齢化の意味と障害者福祉の動きを概説し、福祉政策の法律が整備されたことを踏まえ、高齢者と障害者が活き活きと生活できる「人によさしい街づくり」をどう実現するかを提起された。

第三講 十月二日(水)

在宅における感染予防対策

講師 休波 茂子

感染発生までのメカニズム、在宅の主な感染症、慢性疾患と感染症との関連等を解説し、現在社会的に注目されている代表



的感染症の紹介と感染予防の意義と実践法を提唱された。

第四講 十月九日(水)

身体運動と健康

講師 山本 憲志

適度な身体運動と有効性を解説し、パークゴルフ等の研究成果を基に検証され、受講生自身の身体データを使って生活習慣病予防の強調と生活体力をつける適度な身体運動を奨励された。

第五講 十月十六日(水)

腰痛の自己管理

助教授 一ツ森栄子

腰痛発症のメカニズム、腰痛と姿勢・動作および職業との因果関係等を解説し、日常生活の姿勢・動作をボディメカニクスの視点から分析し、腰痛予防と自己管理を具体的に提言された。



助産学・地域看護学実習

昨年九月三十日からの四週間と十一月二十五日からの四週間、四年生の助産学実習が実施されました。

この実習は助産師を目指し、助産学を選択した学生(今年度は七名)が履修します。助産学は三年生前期から講義が始ま

り、妊娠・分娩・産後の母子や助産業務に関する知識、母親学級・分娩介助に必要な技術について学び、この実習でそれらを統合し、実践力を身につけます。

クラブ
活動紹介
女子バスケット部

女子バスケット部

これまでバスケット部として男子と共に活動してきましたが、女子バスケットボール部として独立しました。

ユニホームをそろえ、北見市内の大会に出場したり、北見工大女子バスケットボール部との交流試合をしています。私たちの目標は、「笑いが絶えないサークル」と言うわけではありません。単に楽しくやるのではなく、より多くのチームと交流をもったり、一つでも多くの試合に出て勝つ事を目標に活動し、その中で楽しさを実感しています。全員バスケットボールが大好きで、みんな意見を出し合いながら練習内容も決めています。部の伝統をつくる。ユニホームを着て試合で熱くなる。学生のうちにしかできない事を私達と共に思いっきりやってみませんか？

三年 佐藤 綾



シリーズ
講座紹介

成人・老人看護学講座

その2

成人・老人看護学講座には9名の教員が在籍しています。今回は、老人看護学の3名の教員を紹介します。

■西片久美子講師

老人看護学全般を担当しています。実習では痴呆性老人の方を受け持つことも少なくはないのですが、はじめは大変に感じてもち次第にこちらが癒される気分になってきます。多分、純粋さや豊かさゆえなのでしょう。山歩きとお茶を続けていましたが、北見に来てからはどちらも休業中で、最近山に心引かれる日々を送っています。足がこれ以上弱らないように斜里岳に登頂したいと思っています。

■中村陽子講師

こんにちは。北海道に来て2年が過ぎました。北海道の自然は日本の宝です。どこを見てもゴッホの絵を見るような、雄大なヨーロッパの田園風景を見ているような気分させてくれます。ようやく車の免許もとれたので、これからは北海道をドライブしたいと思います。また、風光明媚な場所があったら教えてください。

■江口保子助手

北海道に来て1年が過ぎました。山登りが好きですが最近なかなか行けないので残念です。学生の皆さんと一緒に実習していく中で新たに気付いたり考えさせられることが多く、自分自身看護について学んでいる最中だと感じます。口下手でうまく伝えられないこともあります。努力していこうと思っています。



左から：中村講師、江口助手、西片講師

実習前半の四週間は七名全員が北見赤十字病院で妊婦健診、分娩介助、産後の母子のケアなど幅広く経験し、後半の四週間は赤十字病院と中村病院の二施設に分かれ、分娩介助に焦点をあて、判断力や



介助技術の修得を目指し実習しました。実習が開始された当初は、学生も戸惑うことが多く、思うように動けない悔しさと不安から涙を流すことも何度ありましたが、保健指導で関わった妊婦さんや分娩介助をした産婦さんから「ついていてくれて助かりました」「いい助産婦さんになって下さい。」などの声に励まされ、数々の失敗を乗り越え何とか実習を続けることができたようです。経験を重ねるとともに少しずつ自信をつけ、終盤には陣痛で苦しんでいる産婦をしつかり受け止め、リードできるまで成長しました。助産師としてはまだまだ未



また、昨年七月二十九日からの二週間、地域看護学実習の一環である保健所・市町村実習が実施されました。

この実習は、地域で暮らしている人々が抱える健康問題とその援助について学び、保健師としての援助の在り方を考えることを目的としています。実習場所は網走・根室・釧路・十勝管内の保健所・支所十カ所及び市町村で、四年生一〇四名が各々の地域に分かれ、家庭訪問や保健事業に参加しました。実習期間中、北見から遠く離れて過ごす学生も多かったのですが、多くのことを学ぼうとよく頑張っていたようです。各々の地域の皆様には大変お世話になりました。

入試情報

入試情報
 本学の十五年度の入学試験は、推薦試験・一般入試・センター入試それに設置認可を受けた大学院の一般入試を加えて行うことになりました。

昨年十一月十七日に実施しました推薦入学試験(定員四十五名は、本学を会場として受験生五十七名が小論文と面接を受け五十名(倍率一・一倍)の方が合格しました。一般入試は定員四十五名は、今年の二月一日、本学と札幌会場及び東京会場の三カ所で行われ英語・小論文そし

て選択科目(数学・化学・生物)の中から一科目、計三科目の受験科目に挑みます。

また、センター入試(定員十名は、英語・国語(近代以降の文章)そして選択科目(数学・化学・生物)の中から一科目の計三科目で本学独自の試験は課しておりません。合格発表は、一般・センター入試とも二月七日です。大学院の一般入試(定員六名)は、今年の二月十六日本学を会場にして行われます。(大学院の一般試験の詳細は二ページに掲載しております。)

奨学金貸与状況

平成14年12月1日現在、各種奨学金団体等からの奨学金の貸与決定状況は次表のとおりです。

名 称	貸与金額	1年生	2年生	貸与金額	3年生	4年生
日本赤十字社北海道支部奨学金	年額60万円	44	29	年額120万円	7	11
				年額60万円	9	12
北見赤十字病院修学資金	年額60万円	0	13	年額60万円	27	15
日本赤十字社看護婦同方会	月額 2万円	0	1	月額 2万円	0	1
北海道看護協会奨学金	月額 2万円	0	0	月額 2万円	0	2
北海道看護職員養成修学資金	月額3.6万円	2	0	月額3.6万円	1	1
地方公共団体		0	4		3	2
北海道厚生連奨学金	月額 4万円	0	0	月額 4万円	1	2
内外学生センターたくぎん奨学金	月額 3万円	0	0	月額 3万円	1	0
小笠原アカデミー奨学財団奨学金	月額2.5万円	0	0	月額2.5万円	2	0
日本育英会 1種 自宅通学者	月額5.1万円	4	3	月額 5万円	2	4
	月額6.1万円	9	8	月額 6万円	7	6
きぼう21プラン	月額 3万円	0	2	年額 3万円	4	2
	月額 5万円	5	5	年額 5万円	13	7
	月額 8万円	4	4	年額 8万円	8	5
	月額10万円	17	14	年額10万円	13	5
日本赤十字社千葉県支部奨学金	年額75万円		1			
武蔵野赤十字病院奨学金				年額60万円	1	

*貸与金額は、平成14年12月1日現在の金額です。

前期行事予定

- 4月7日 入学式
- 4月8日 新入生・在学生ガイダンス
- 4月9日 前期授業開始
前期履修登録(同18日)
- 4月28日 臨時休業
- 4月30日 臨時休業
- 5月1日 日本赤十字社創立記念日
- 5月2日 臨時休業
- 6月27日 臨時休業(午後)
- 6月28日 大学祭(同29日)
- 6月30日 臨時休業(午前・4年生を除く)
- 7月29日 前期授業終了
- 7月29日 前期定期試験
(~8月1日・4年生を除く)
- 8月4日 1年生夏季休業(~9月12日)
2年生夏季休業(~9月29日)
3年生夏季休業(~9月5日)
- 8月11日 4年生夏季休業(~9月5日)
- 9月30日 4年生前期授業終了

国際交流のつどい

昨年の十二月十六日(月)午後四時三十分から本学の講堂で、国際交流委員会が主催した「国際交流のつどい」が開催されました。

今回は、国際協力事業団北海道国際センター(帯広)の山田保所長を迎え「体験的国際協力から二十一世紀を見つめて」をテーマに約一時間講演を行いました。

講演では、国際協力事業団(CIC)の現状や体験談を交えながら異文化と接することで創造的な発想が生れる等の自説を紹介するなどして国際理解の重要性が話されました。会場に集まった学生や教職

員七十四名は、エネルギーにテンポよく話される山田所長の話を熱心に聞いておりました。

卒業生卒業式

昨年の七月二十八日(日)午後一時から本学を会場にして、平成十四年度オープンキャンパスを開催しました。

当日は、高校三年生五十九名を中心として九十四名が参加し、本学の教育理念及び入試の説明並びにグループに分れて施設見学そして最後に個別質問コーナーで教員や在学生に大学の様子や奨学金等について熱心に質問していました。

教員人事

平成十四年十一月三十日付けの教員人事は、次のとおりです。

【退職】

- 成人・老人看護学講座 講師 狩野 雅道

編集後記

大学が開学以来四年目を迎え、初めての卒業生を出すことになりました。また本学は、今春に大学院も設置されることになり、より充実した看護教育・研究の拠点となります。第八号では第四学年全員で行なった卒業論文発表会の内容を大きく取上げ、その様子を皆様にも御伝え致します。今後魅力ある誌面作りを志して参りますので、記事、原稿のご協力をお願いいたします。

日本赤十字北海道看護大学学内誌

+ Viva Kango

第8号

発行日/2003年1月31日
編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
Tel.0157-66-3311 Fax.0157-61-3125
mail to : kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp